

## 令和 7・8 年度 複合構造委員会 第 3 回委員会 議事録

日 時：令和 8 (2026)年 6 月 12 日(金) 14:00～16:50 (休憩 15 : 20～15 : 30)

場 所：主婦会館プラザエフ(四ツ谷)と Zoom の併用

出席者：

大山委員長, 北根副委員長, 平幹事長, 秋本委員(W), 池田委員(W), 石川委員(W), ~~今川委員~~,  
~~岩波委員~~, 宇佐美委員(W), 大垣委員(W), 大久保委員, 大西委員(W), ~~奥井委員~~, ~~土原子委員~~,  
木田委員, 栗橋委員(W), 小森委員(W), 齊藤(成)委員, 齋藤(隆)委員, 櫻庭委員, 山東委員,  
下村委員, 杉浦委員, 鈴木委員(W), 高嶋委員, 瀧本委員, 玉野委員, 利根川委員, 中野委員,  
中村委員, 新名委員(W), 西崎委員, 仁平委員, 橋本委員(W), 長谷川委員(W), 樋原委員(W),  
畑委員, 林委員, 古市委員, 古内委員, 牧委員, 松井委員, 松本(崇)委員(W), 松本(高)委員,  
松本(幸)委員(W), 溝江委員, 山田委員, 川端幹事, 塩畑幹事(W), 高橋幹事, 内藤幹事,  
中田幹事, 中原幹事, 中村(一)幹事, 橋本幹事(W), 藤林幹事, 藤原幹事, 皆田幹事,  
山上幹事, 山本幹事, 横田幹事(W), 上田顧問(W), 島顧問(W), 中島顧問, 中村顧問(W),  
藤井顧問, 趙顧問(W), 三ツ木顧問, 横田顧問(W) (敬称略)

<W : オンライン参加>

配布資料：

- 委 3-0 令和 7・8 年度 第 3 回複合構造委員会 議事次第
- 委 3-1 令和 7・8 年度 複合構造委員会 委員名簿
- 委 3-2 令和 7・8 年度 第 2 回複合構造委員会議事録
- 委 3-3 令和 8 年度 委員会スケジュール
- 委 3-4 複合構造委員会 小委員会委員構成
- 委 3-5-1 審議, 周知事項について
- 委 3-5-2 複合構造委員会規則の改正について
- 委 3-6 複合構造委員会 小委員会一覧
- 委 3-7 H111 カーボンニュートラルに向けた複合構造のあり方に関する研究小委員会
- 委 3-8 H153 複合構造標準示方書適用検討小委員会
- 委 3-9 H221 樹脂・FRP 材料による複合技術研究小委員会
- 委 3-10 H222 複合構造におけるプレバ・プレキャスト工法の活用に向けた研究小委員会
- 委 3-11 H223 弾性合成桁の設計に関する調査研究小委員会
- 委 3-12 H224 AI を活用した複合構造物のライフサイクルマネジメントの高度化に関する研究小委員会
- 委 3-13 重点研究課題
- 委 3-14 令和 7 年度 複合構造委員会予算 決算
- 委 3-15 令和 7(2025)年度 活動度評価結果
- 委 3-16 令和 8 年度 複合構造委員会予算(案)
- 委 3-17 令和 8 年度 全国大会・年次学術講演会(共通セッション)
- 委 3-18 令和 8 年度 全国大会・研究討論会
- 委 3-19 委員会企画について
- 委 3-20 H001 シンポジウム小委員会
- 委 3-21 H005 土木学会論文集特集号(複合構造) 編集小委員会
- 委 3-22 H006 複合構造の継続教育小委員会

委 3-23 H007 300 年暴露プロジェクト小委員会

委 3-24 出版関連報告

委 3-25 H003 選挙管理小委員会

## 議事内容：

### 1. 委員長挨拶

大山委員長より開会の挨拶がなされた。第 2 回委員会以降、複合構造委員会 20 周年記念式典やカーボンニュートラルに向けた複合構造のあり方に関する講習会、現場見学会を、関係各位の協力の下、無事に開催することができた旨の報告がなされた。

### 2. 委員構成、幹事構成について

平幹事長より、委 3-1 に基づいて、委員および幹事構成について確認がなされた。

### 3. 第 2 回委員会(令和 7・8 年度)議事録確認について

平幹事長より、第 2 回委員会議事録(委 3-2)はメール審議にて承認されたことが報告され、振り返りがなされた。

### 4. 令和 8 年度委員会スケジュール

平幹事長より、委 3-3 に基づいて、幹事会・委員会、イベントなど年間スケジュールの説明がなされた。

### 5. ①常設小委員会委員構成、②第一種小委員会委員構成

平幹事長より、委 3-4 に基づいて説明がなされた。複合構造委員会 20 周年記念式典に合わせて設立された H008 記念式典企画小委員会は、一旦、活動を終了する。

### 6. 【審議事項】(メール審議結果の報告を含む)

#### ・複合構造委員会規則の改正について

平幹事長より、委 3-5-1 および 3-5-2 に基づいて説明がなされた。委員の任期は、現状 4 月 1 日より 2 年間であるが、委員の選定時期が所属先の異動などと重なること、他の研究委員会の状況などを勘案して、任期を 6 月 1 日より 2 年間とする変更が提案された。

説明後、以下の質疑応答がなされた。

・任期を 5 月末までとすると、年度初に異動があった場合、名簿の所属を変更するのか。

また、次期の委員選定や年度初の幹事会の扱いはどうするのか。

⇒委員会名簿の所属について、4 月および 5 月に講習会などが開催されることは少ないため、運営において大きな支障はないと考えられるが、所属の記録の仕方などの詳細は、今後、検討する。次期の委員は委員長が選定するため、幹事会に依存はしない建付けではあるが、任期開始変更後は委員会、幹事会がこれまでより 2 ヶ月程、後に開催されることになる。委員長選挙時期との関係もあるため、任期開始が 6 月である構造工学委員会や鋼構造委員会の流れも参考にして、今後、詳細に検討する。

そして、改正案の(3)委員長、(4)委員等の番号は誤りであり、現行の(1)委員長、(2)委員等が正であるため、これを修正することを前提に改正(案)が承認された。この後、土木学会理事会に諮ることとなる。

なお、今期の委員は任期が 2 ヶ月長くなるため、ご協力頂きたい。

- ・ H103 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会の再開について

大山委員長より説明がなされ、H103 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会の再開について承認された。

説明後、以下の確認、質疑応答がなされた。

- ・ 本小委員会の委員は決まっているのか。

⇒決まっていない。委員は今後検討することになる。小委員会委員長は大山委員長として、小委員会を再開したい。

- ・ メール審議事項の報告

平幹事長より、報告がなされた。

- ・ アンケート結果の報告 構造系 3 委員会連絡会(2026 年 3 月 31 日)の報告

平幹事長より、構造系 3 委員会連絡会における「鋼構造キャリア入門ネットワーク」、  
「鋼構造博士連携ネットワーク」立ち上げに際し、委員で大学に所属している方の研究室における博士後期課程学生の在籍状況をヒアリングした結果の報告がなされた。

- ・ 複合構造委員会の小委員会一覧について

H005 土木学会論文集特集号編集小委員会の幹事長は誤植であり、今川委員である。本資料について、誤記などがあれば平幹事長に連絡頂きたい。

## 7. 【小委員会報告】 H111 カーボンニュートラルに向けた複合構造のあり方に関する研究小委員会

西崎委員(H111 委員長)より、委 3-7 および Power Point に基づいて、中間報告がなされた。

- ・ 活動期間は、2024 年 11 月より 3 つの WG(FRP 材料 WG, 複合構造 WG, PD 企画 WG)を設置して活動しており、2 月 10 日(火)に講習会を開催した。現状は、講習会後の追加検討内容やとりまとめに必要な期間を精査しているところであり、1 年程度の延長あるいは 2 期目への移行などについては、今後、審議いただきたい。

- ・ 構造工学委員会、鋼構造委員会ならびにコンクリート委員会と連携しており、CN-PD 連携企画部会、CN-GL 連携作成部会にて検討を進めている。CN-PD 連携企画部会では、構造系 4 委員会それぞれで講習会を開催しており、構造工学委員会から、9 月の土木学会全国大会において研究討論会が実施される予定である。CN-GL 連携作成部会では、「CN に向けた土木構造物のあり方に関する実施すべき事項(案)」を 2025 年 1 月に公表、また、令和 7 年度重点研究課題を行い、報告書の付録として「土木構造物のライフサイクルにおける GHG 排出量の算定に関するガイドライン(試案)」を公表した。なお、このガイドライン(試案)について、各委員会に査読の依頼が届いているため、審議願いたい。

⇒この依頼は、構造工学委員会から複合構造委員会への依頼であることから、通常の複合構造レポートの査読とは異なり、委員全員に意見照会をお願いする。後日、平幹事長より、委員宛にメールで依頼する。

説明後、以下の質疑応答がなされた。

- ・ 1 年程度の延長あるいは 2 期目への移行は、検討のボリュームで判断するのか。

⇒その通りである。どこまで検討するのか小委員会で議論して決めたいと考えている。

- ・ 材料製造時の CO<sub>2</sub> について、鋼やコンクリートは基礎データが蓄積されていると思うが、FRP はどのようにまとめることになるのか。

⇒FRP はあらゆる分野で使用されているが、土木構造物に用いる FRP として基礎データをまとめることを考えている。

## 8. 小委員会進捗報告

### H153 複合構造標準示方書適用検討小委員会

北根委員(H153 委員長)より、委 3-8 に基づいて説明がなされた。

- ・2024 年制定 複合構造標準示方書に基づいた試設計例などを作成後、複合構造レポートなどを発刊し、講習会を開催する予定である。
- ・活動期間は、2026 年 6 月～2028 年 5 月の 2 年間である。
- ・委員などはメール審議にて承認頂いており、6 月 30 日(火)に第 1 回小委員会を開催する。

説明後、以下の意見がなされた。

- ・2024 年制定 複合構造標準示方書の合成はりにおいて誤記があるため、正誤表の作成もご検討頂きたい。

### H221 樹脂・FRP 材料による複合技術研究小委員会

橋本幹事(H221 連絡幹事)より、委 3-9 に基づいて説明がなされた。

- ・2 年間の活動を行い、5 月末に報告書の初稿が完成したところである。
- ・今後は、報告書の修正、校正を行い、2025 年 12 月(土木学会)、2026 年 1 月(大阪公立大学 梅田サテライト)に講習会を行う予定である。

### H222 複合構造におけるプレキャスト工法の活用に向けた研究小委員会

中田幹事(H222 連絡幹事)より、委 3-10 に基づいて説明がなされた。

- ・本小委員会は、実験や解析による検討が必要となったため、2 期目に入っている。実験を実施し、その結果[速報値]が報告された。
- ・今後は、実験データの詳細な分析や解析などを行い、複合プレキャストを用いた性能照査の手順や照査事例などを取りまとめる予定である。

説明後、以下の質疑応答がなされた。

- ・No.0 (接合面無)の片側のみ、他と比較して試験体端部の H 鋼の引き込み量が小さい理由は明らかになっているのか。

⇒H 鋼のひずみやひび割れ状況などから、今後、小委員会において詳細に分析する。

### H223 弾性合成桁の設計に関する調査研究小委員会

山本幹事(H223 連絡幹事)より、委 3-11 に基づいて説明がなされた。

- ・第 5 回、第 6 回小委員会が開催された。第 16 回 複合・合成構造の活用に関するシンポジウムで発表された論文などの知見の共有や設計 WG、解析 WG のメンバーの決定、検討方針を議論した。
- ・今後は、WG 活動、試設計の実施、報告書の作成を行う。期限延長については、今後、審議頂く予定である。

### H224 AI を活用した複合構造物のライフサイクル管理の高度化に関する研究小委員会

中原幹事(H224 連絡幹事)より、委 3-12 に基づいて説明がなされた。

- ・第 1 回～第 3 回小委員会が開催された。委員からの DX や AI の活用・取り組みの紹介や全員を対象としたアンケートを実施、分析が行われた。
- ・第 4 回小委員会(8 月 5 日(水)、6 日(木))を鉄道総合技術研究所 宮崎実験センターで開催し、AI での活用のための高架橋の各種データを取得する予定である。

## 重点研究課題：未曾有の自然災害における構造物挙動を考えるための若手技術者による専門知の集結と研究テーマ探索小委員会

玉野委員(重点研究課題委員)より、委 3-13 に基づいて説明がなされた。

- ・未曾有の自然災害を対象として、将来を担う若手が柔軟に動きロードマップを作成して研究テーマを探索する。
  - ・活動期間は、2026 年 2 月～2027 年 2 月の 1 年間である。
  - ・5 つの WG を立ち上げ、各分野の若手を中心に、横断的・相互的に議論を進めている。
- 第 1 回、第 2 回全体会議、第 1 回専門知 WG 会議が開催された。

## 9. 令和 7 年度 委員会決算

平幹事長より、委 3-14 に基づいて説明がなされた。86.7 万円の予算のうち、824,134 円を執行した。

## 10. 令和 7 年度 委員会活動度評価結果

平幹事長より、委 3-15 に基づいて、令和 7 年度 委員会活動度評価結果の活動度評価ランクが A であった報告がなされた。

## 11. 令和 8 年度予算(案)

平幹事長より、委 3-16 に基づいて説明がなされた。

- ・2026 年度の予算について、2026 年度調査研究費予算(活動度評価ランク A)は 80.3 万円で確定した。調査研究拡充支援金については、7 月頃に土木学会から通知される予定であり、この後に 2026 年度予算について委員にメール審議いただく予定である。
- ・委員長選挙はこれまで郵送で投票を行っており、その予算が必要である。しかし、現在、電子化による投票を検討しており、それが実施されると郵送費が不要となる。

説明後、以下の質疑応答がなされた。

- ・H111 について、資料では重点研究課題予算にて執行とあるが、2026 年度は重点研究課題ではないため、その予算はつかない。

⇒他小委員会と同様に予算配分を行う。

- ・委員の開始任期を 6 月からに変更した場合、予算の整合はとれるのか。

⇒3 月中旬の年度予算締めは変更できないため、3 月中旬以降から 6 月までの間に生じた費用は次年度予算の扱いとならざるを得ない。

## 12. 令和 8 年度全国大会・年次学術講演会(共通セッション)

皆田幹事より、委 3-17 に基づいて説明がなされた。

- ・今年度は 61 件の投稿があった。
- ・土木学会より座長依頼がなされているところであるが、資料の佐藤先生は発表と重なったため、北根先生に変更予定である。
- ・最終セッションは参加人数が少なくならないよう、積極的に参加、討議頂きたい。

## 13. 令和 8 年度全国大会・研究討論会

平幹事長より、委 3-18 に基づいて説明がなされた。

- ・研究討論会は 8 月 31 日(月) 13 時～15 時、「複合構造の「今」を知り、次の 10 年を考える」で確定した。

- ・H109「複合構造の現状と分析 2025」をベースに、H109 の委員を中心とした話題提供を行う予定である(事前録画).

#### 14. 委員会企画について

藤林幹事より、委 3-19 に基づいて説明がなされた.

- ・第 1 回 現場見学会の報告がなされた. 第 2 回見学会も計画するので参加頂きたい.
- ・来年度の重点研究課題および新規小委員会のテーマ案の募集を行っている. テーマに関する要望や情報があれば連絡を頂きたい.
- ・前回の委員会で情報を頂いた新材料・新工法を用いた複合構造に関するテーマについて、木材と鋼あるいはコンクリートの複合構造に関する調査状況の報告がなされた.

#### 15. シンポジウム小委員会 (H001)

山本幹事(H001 幹事長)より、委 3-20 に基づいて説明がなされた.

- ・メール審議で承認頂いた通り、実行 WG に藤原幹事と横田幹事、推薦 WG に櫻庭委員に新たに参加頂いている.
- ・シンポジウムは 11 月 5 日(木)、6 日(金)の 2 日間で、土木学会(WEB 併用)で実施する.
- ・32 件の講演申込があり、全て、採択された.
- ・特別講演と展示会の開催も検討しており、詳細は小委員会で今後検討する.

#### 16. 土木学会論文集特集号編集小委員会(H005)

牧委員(H005 委員長)より、委 3-21 に基づいて説明がなされた.

- ・土木学会論文集特集号(第 82 巻 14 号)の作業は完了しており、6 月末に公開される予定である.
- ・予算状況について、小委員会での予算執行はなし. なお、2026 年度、Editorial Manager の利用料の値上げがなされるが、投稿料の値上げは、現状、考えていない.

#### 17. 複合構造の継続教育小委員会(H006)

中村幹事(H006 委員長)より、委 3-22 に基づいて説明がなされた.

- ・3 月 24 日(火)に第 1 回セミナーWG、5 月 28 日(木)に全体委員会を開催した.
- ・セミナーWG にて、2 月 10 日(火)に開催された H111 のイベント支援を実施した.
- ・複合構造セミナーについて、今年度は 2 回(第 10 回、第 11 回)実施する. 第 10 回は 10 月 15 日(木)に講義形式、第 11 回は 2 月頃に講演形式(事例紹介)で開催を予定している. 講義・講演内容の詳細は今後検討する.
- ・e ラーニングについて、土木学会行事として 2027 年度に実施できるように、2026 年度内に動画教材を作成する. 運営方法などの詳細は今後検討する.

#### 18. 300 年暴露プロジェクト小委員会(H007)

平幹事長(H007 幹事長)より、委 3-23 に基づいて説明がなされた.

- ・ずれ止め試験体について、今年度、押抜き試験を大阪工業大学にて実施し、ずれ定数の変化について確認を行う予定である.
- ・積層ゴム支承試験体について、2025 年 11 月に外観目視と力学試験を行い、3 年間の結果報告書(案)を 6 月中に作成中である.
- ・FRP 試験体について、今年度より暴露試験を開始する予定である.

説明後、以下の質疑応答がなされた。

- ・ずれ止め試験体のずれ定数の確認は、低荷重の範囲で実施するということか。  
⇒低荷重の範囲で、3年間暴露したずれ定数の変化について確認を行う。1体に対して静的押抜きせん断試験を実施して最大せん断耐力把握後、全ての試験体のずれ定数は確認できている。しかし、試験体の劣化に伴う耐力の低下度合いが明らかでないため、載荷する荷重レベルは、今後、検討する。

## 19. 出版関連報告

中田幹事より、委 3-24 に基づいて説明後、以下の質疑応答がなされた。

- ・複合構造標準示方書の原価回収部数について、3冊セットの欄には数値の記載がなく、分冊の箇所には数値があるが、どのように理解すれば良いのか。  
⇒各分冊の販売部数は、分冊単体の販売数に3冊セットの販売部数を加えた値である。この値と、各分冊欄に記載された原価回収部数を比較すればよい。

## 20. その他

平幹事長より、委 3-25 に基づいて、委員長選挙における電子投票の導入の途中報告について説明がなされた。これまでは記入用紙を郵送でやり取りしているが、事務負担の軽減と迅速な集計を目的に、次回より電子投票に変更する提案がなされた。選挙管理小委員会で案を作成、幹事会にて審議・確認を行うが、第4回委員会ときには開票結果を報告する予定であるため、メールにて電子投票への変更の審議を行う予定である。

## 21. 閉会挨拶

北根副委員長より、閉会の挨拶がなされた。

以上  
(記録：中田)